

「直江兼続公」に決定！

平成二十一年の大河ドラマは、上越市ゆかりの「直江兼続公」の生涯を描いた『天地人』に決まった。

大河ドラマ『天地人』は新潟県出身の歴史小説家、火坂雅志の同名の小説を原作に、戦国時代に「義」を貫き「愛」に生きた武将「直江兼続公」の生涯を描いたものである。

小説『天地人』は兜の前立てに「愛」の一字をかけた、上杉景勝の家臣でありながら、豊臣秀吉、徳川家康から恐れられた智勇兼備の名将「直江兼続公」の苦闘と栄光の生涯を描いたものである。曹洞宗の雲洞庵で学び、「上杉謙信公」の最愛の弟子であり、義の精神を最もよく理解し、それを受け継いだ「直江兼続公」の活躍には胸おどらされる。

小説は、まだ、樋口与六と名乗っていた頃、弟と川中島の妻女山に登り、謙信

と信玄が死闘を繰り返した川中島の戦いを振り返り、謙信の采配の見事さを確認するくだりから始まる。

真田幸村、明智光秀、豊臣秀吉、石田三成、徳川家康など多くの武将との出会いが興味深く描かれており、時間忘れて読み進んでしまふ。

圧巻は天下分け目の関が原の戦いの直前、上洛をしない上杉に對し家康が十二万の大軍で総攻撃をかけるくだりであろう。死をも覚悟した上杉軍であったが、石

田三成が拳兵したため徳川軍は急遽、関が原へと方向変換し、兵を引き返し始めた。それを見た兼続は今こそ好機と徳川軍の追撃を進言するが、上杉景勝は「敵の背中に矢弾を撃ちかけた瞬間から、上

杉の名は薄汚い泥にまみれる」と許さなかった。・・・

ドラマではどのようなストーリーとなるか今から楽しみであるが小説も大変面白く読者を満足させてくれる。（編集部）



上越で活躍・直江兼続が主役

09年のNHK大河ドラマの原作に、上杉景勝の家臣で上杉家家老、直江兼続の生涯を描いた泉出の作家、火坂雅志さんの歴史小説『天地人』が選ばれたことを受け、地元の歴史小説『天地人』が好まれる機会になる」と手放しの喜びよう。

直江兼続の活躍の場となった上越市では、木浦正幸市長が新潟、山形、ディネーター役を務めて

09年NHK大河ドラマ

県出身 火坂さんの「天地人」
地元から喜びの声

を讀いた志、「愛」を掲げて地域をきめていった力は、現代の社会も通じる生き方のヒントがある」とコメントを発表した。

一方、泉田裕彦知事は【萩原滋樹、黒田阿紗子】